

防ぎえるがん死をゼロにするために
～ がん検診の向上を目指して～



「検診で見逃したがんで亡くなる」 そんな未来をゼロにするために

医療技術は進歩し続けています。その中で現在、
2人に1人が**がん**を患い、4人に1人は**がん**が原因で亡くなります。

【出典：(C) 国立研究開発法人国立がん研究センターデータより算出】

日本人が一生のうちにがんと診断される確率は(2020年データに基づく)、日本人ががんで死亡する確率は(2023年のデータに基づく)※老衰を除く

より良いがん検診の未来のため

現在の対策型がん検診(胸部X線検査、便潜血検査)では、
肺がんは1万人あたり約**3人**、**大腸がん**は1万人あたり約**15人**の
がんを見つけています。

【出典：厚労省の「令和4年度の地域保健・健康増進事業報告」より算出】

がん検診をする側・される側ともに毎年頑張っていますが、
それでも多くの肺がん・大腸がん患者さんが亡くなります。

※ 肺がん死亡数 7万5000人/年 ※ 大腸がん死亡数 5万4000人/年

「精密がん検診の選択肢導入で、治療可能な**がん**がより多く見つかるはず」

新しい **精密がん検診** で救える未来があります。

胸部X線検査 (レントゲン)

がん
死亡数
1位

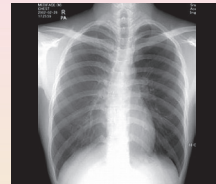
肺がん



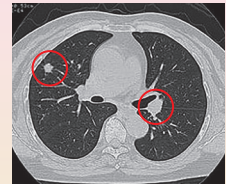
胸部CT検査

胸部CTにより数ミリの状態で肺がんが見つければ、手術で根治できます。
治療期間や治療費が大幅に抑えられます。

胸部X線では見えない肺がんもCTでは
見つけやすい。



胸部X線写真(レントゲン)



胸部CT画像

国立がん研究センターHPより

便潜血検査

がん
死亡数
2位

大腸がん



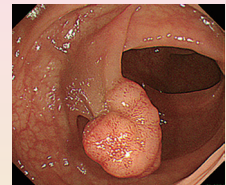
大腸内視鏡検査

大腸内視鏡検査によってポリープを日帰り
切除することで、大腸がんの大部分を予防
できます。

大腸がんは予防可能ながん。
95%はポリープ(腺腫)が変化してがん化する。



腺腫(良性ポリープ)



悪性腫瘍(がん)

一般社団法人日本消化器内視鏡学会 HP「大腸がんの進行度による総医療費の比較検討」より

新しいがん検診を、 誰もが選ぶことのできる未来を目指して。

企業版ふるさと納税制度等を活用して、
胸部CT・大腸内視鏡の検査費用の
無償化に取り組んでおります。

日本初・世界初
鳥取県倉吉市で事業開始



全国の自治体へこの取組みの
展開を目指しております。

この事業が目指すところ

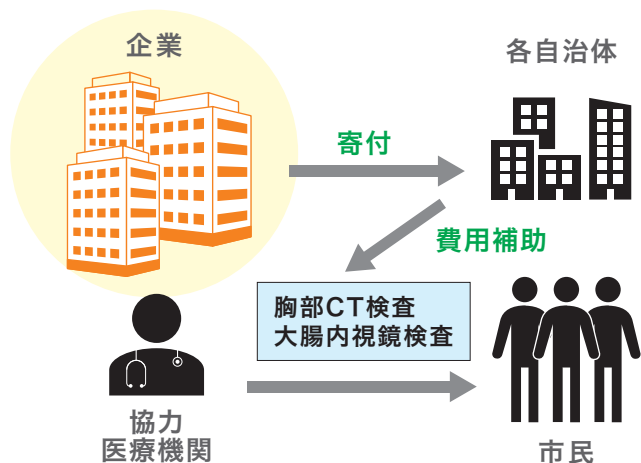
がんの早期発見・早期治療によって がん死を減少させるだけでなく、この社会実験を通じて、現在のがん検診の在り方の革変を目指します。
胃がん検診で胃カメラを選択できる時代に革新したように、胸部CT・大腸内視鏡が
選択できるがん検診の実装を目指してまいります。

300万円の寄付で

- ◆ 25人の方のポリープが見つかり、大腸がんを予防できます。
- ◆ 1人の方が大腸がんを早期発見でき、早期治療に向かえます。
- ◆ 数ミリの肺の異常を早期発見でき、早期治療に向かえます。
- ◆ 効果検証により「適切ながん検診への革新」の一助となります。

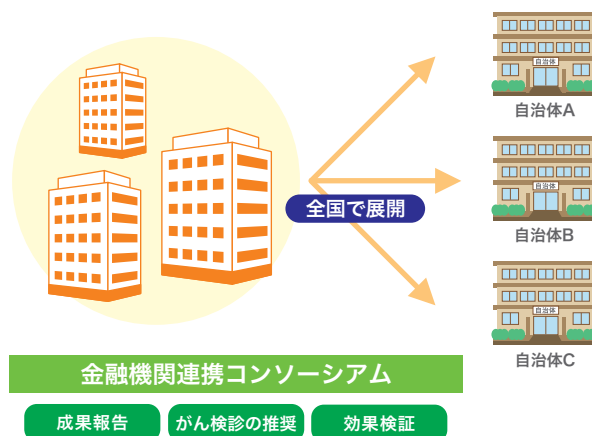
寄附の目的と効果検証を確実にを行い、有意義な企業CSR (企業の社会的責任)とフィランソロフィーに貢献。

事業取組みの流れ



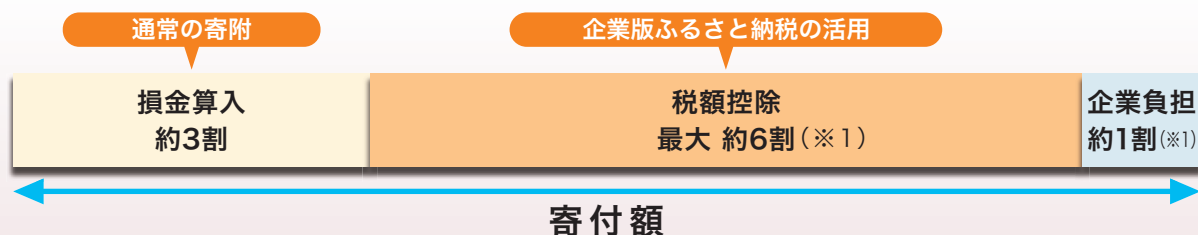
✓ポイント

複数の自治体の
持続的活動に貢献



✓ポイント

実質負担は約1割の寄附で社会貢献!(*1)



(例) 1,000万円寄付すると、最大900万円の法人税等が軽減されます。(*1)

※1 控除額ならびに企業負担額は、寄付企業の決算の状況により変動します。
(税額控除割合につきましては、担当税理士等にご確認ください。)

✓ポイント

持続的社會活動への貢献で企業評価がUP!

SDGsへの貢献

健康的な住民が暮らす
まちづくり



感謝状進呈

自治体からの感謝状
市長からの贈呈式*

(※一定のご寄付以上で)

情報公開

市のHPや新聞等での
掲載で公表

※地方自治体からのWEBリンクによりSEO対策も期待できます。

本プロジェクトに関するお問い合わせ

株式会社 RO(アールゼロ) / がん撲滅事業コンソーシアム

〒682-0024 鳥取県倉吉市伊木215-3
TEL:0858-24-6143 FAX:0858-24-6142

Mail : no_more_cancer@rzero.jp

